

月夜見宮

月夜見宮は、伊勢市宮後にご鎮座される、豊受大神宮の別宮です。外宮北御門口から北へ約三百メートル、伊勢市駅よりほど近く、古くより山田と呼ばれる伊勢市街の中心地に広がる森がその宮域で、クスやケヤキ、スギなどが茂り、三方を堀がめぐっています。

この地は古くは大河原または西河原と呼ばれ、農耕と深いつながりのある神社として信仰を集めて来ました。

伊勢の神宮

「お伊勢さん」と親しまれる伊勢の神宮は、二千年に及ぶ悠久の歴史を有し、皇室の御祖神をお祭りする宮として、全国からの崇敬を集めています。

正式名称は「神宮」であり、神宮は、皇大神宮(内宮)、豊受大神宮(外宮)の両正宮を中心として十四所の別宮、百九所の摂社・末社・所管社合わせて百二十五の宮社の総称です。これらの宮社は、広く伊勢・松阪・鳥羽・志摩の四市、度会・多気の二郡にわたってご鎮座しています。神宮では、日々、日本の平安や五穀の豊穰などをお祈りし、年間千数百回にのぼるお祭りが行われています。



豊受大神宮

皇大神宮



十四所の別宮

神宮には、皇大神宮に荒祭宮、月讀宮、月讀荒御魂宮、伊佐奈岐宮、伊佐奈彌宮、瀧原宮、瀧原竝宮、伊雜宮、風日祈宮、倭姫宮の十所、豊受大神宮に多賀宮、土宮、月夜見宮、風宮の四所、合わせて十四所の別宮があります。

別宮とは、正宮(本宮)に対する別宮(別け宮)であり、正宮につぐ重要なお宮です。古くは天皇の勅書により、後には官符をもって、宮号を宣下された神社だけが宮号を称しました。現在も、年間のさまざまなお祭りや式年遷宮は正宮に準じて行われます。



多賀宮

荒祭宮



宿衛屋

参道入口の鳥居



所在地：伊勢市宮後1
電話：0596-28-2800
アクセス：外宮 北御門口より 約300メートル
JR 伊勢市駅より 約400メートル



豊受大神宮別宮 月夜見宮



神宮司庁

〒516-0023 三重県伊勢市宇治館町1
電話 0596-24-1111(代)
<https://www.isejingu.or.jp/>





月夜見宮

御祭神 月夜見尊
月夜見尊荒御魂

『古事記』『日本書紀』によると、御親神・伊弉諾尊が海で禊をされた時、左目より天照大神が、右目より月夜見尊がお生まれになり、伊弉諾尊は姉神の天照大神に高天原を、弟神の月夜見尊に夜之食国をお治めになるようご委任されました。

月夜見尊はその光彩が天照大神に次ぐとされ、太陽に次ぐ月になぞらえてお讚えしたものとされます。また、荒御魂とは、神様の御魂の、穏やかなお姿を和御魂

方各二二丈(約六メートル)、周囲に壕をめぐらした大きなお宮でした。しかし、中世以後、境界も不明になり、江戸時代に何度かの整理や改修が行われました。

当宮は、皇大神宮の月讀宮と同じく、古くより正殿が二区あって、月夜見尊と月夜見尊荒御魂を別々の殿舎に奉斎していましたが、応永二十六年(一四一九)に月夜見宮及び小殿・忌火屋殿等が炎上(兼宣公記「応永頭工日記」)し、その後小殿の再興は見るに至らず、現在も月夜見尊、月夜見尊荒御魂とが一つの殿舎にお祭りされています。

昭和二十二年(一九四七)に、地元伊勢の崇敬者を中心に月夜見講が発足し、現在



神路通り

月夜見宮と外宮北御門に通じる道は、現在「神路通り」と呼ばれています。

江戸時代初期に興村弘正が著した『勢州古今名所集』によれば、北御門から月夜見宮への二町(約二八メートル)の大路には並木が立ち並んでいたため、この一直線の道を当時、人々は並木路と呼び、人々はその中央を通行することを遠慮したとのことでした。それは、この道を月夜見尊が往来されるという信仰の表れであるとし、

宮柱立てそめしより月読の
神の行きかふ中の古道

等の古歌を伝えていきます。現在も民間信仰

恒例のお祭り 年中の恒例祭及び臨時祭には正宮に次いで丁重にお祭りが奉仕されています。

別宮のお祭りは、『延喜大神宮式』に月讀宮、瀧原宮以下に對して「祈年、月次、神嘗等の祭に供えよ」とあるのをそのはじめとして、今も祈年祭、月次祭、神嘗祭、新嘗祭には皇室から幣帛が奉られます。



神嘗祭 (10月)

8月4日	風日祈祭	午後10時	由貴夕大御饌
10月18日	神嘗祭	午前2時	由貴朝大御饌
11月24日	新嘗祭	午前8時	大御饌
12月18日	月次祭	午後10時	由貴夕大御饌
12月19日	月次祭	午後2時	由貴朝大御饌
12月19日	月次祭	午前10時	奉幣
12月19日	月次祭	午後2時	由貴朝大御饌
12月19日	月次祭	午前10時	奉幣

と申し上げるのに対して、時に臨んで格別に顕著な神威をあらわされる御魂のお働きをさします。

皇大神宮別宮の月讀宮にお祭りされている月讀尊、月讀尊荒御魂と同じ神様ですが、ここでは月夜見尊の文字が用いられています。

ご鎮座の由緒と歴史

月夜見宮の創始についての詳細は不明ですが、その由緒は古く、延暦二十三年(八〇四)に撰述された『止由氣宮儀式帳』や延長五年(九二七)の『延喜太神宮式』に、は月夜見宮奉養会と改称して、毎年四月十九日と九月十九日に大祭が行われています。

きました。

鎌倉時代後期の外宮祠官であった度会(西河原)行忠(一二三六―一三〇六)の選による『伊勢二所太神宮神名秘書』には、月夜見宮の所在地名は大河原村とあり、昔この辺りを宮川の分流がめぐっていたことが想像できます。鎌倉時代編纂の『神宮雑例集』によると、

高河原はもと離宮のあった場所と考えられ、古い時代のご鎮座地については、須原大社旧地など諸説あります。



高河原神社

式年遷宮

神宮では二十年に二度、殿舎や御装束神宝を新たにしてお祭りにお遷りを願う神宮式年遷宮を行います。一千三百年にわたって続けられてきた神宮最大のお祭りです。『太神宮諸雜事記』によると、天平十九年



川原大祓(平成27年)

(七四七)に第四回内宮遷宮が斎行され、同年十二月に「諸別宮遷し奉りて二十年に二度の御遷宮、長例の宣旨了んぬ」とあり、奈良時代には現在と同様に、別宮も式年遷宮が行われていたことがわかります。第六十二回神宮式年遷宮は平成二十五年秋、両正宮とそれぞれの第一別宮で行われ、月夜見宮でも、平成二十七年二月に式年遷宮が行われました。現在の殿舎は東側の御敷地にあり、西側は古殿地となっています。